

《私たち こんな仕事をしています》

女川原子力発電所では、現在、定期検査や各種安全対策工事などを行っており、協力企業も含めると約2,000人（このうち東北電力社員は約500人）が働いています。「発電所だより」では、発電所で働く所員を通して女川原子力発電所の「今」を紹介しています（随時掲載）。

今回は、地元 女川町、石巻市出身者4人が所属する保全部 タービングループの登場です。



保全部 タービングループ

原子炉でつくられた蒸気の色を発電機に伝える役割を持つ蒸気タービンをはじめタービン建屋内の機械設備の維持管理等を担当。



配管等が壁を貫通している個所をシール施工

震災後、タービン以外の仕事も増えているとのことですが。

安全対策のひとつとして、地震による大変強い揺れなどで、万一、配管等が破断し、建屋内に水があふれた場合でも重要施設に影響を与えないよう壁の貫通部に止水処理をしています（溢水（いっすい）対策）。

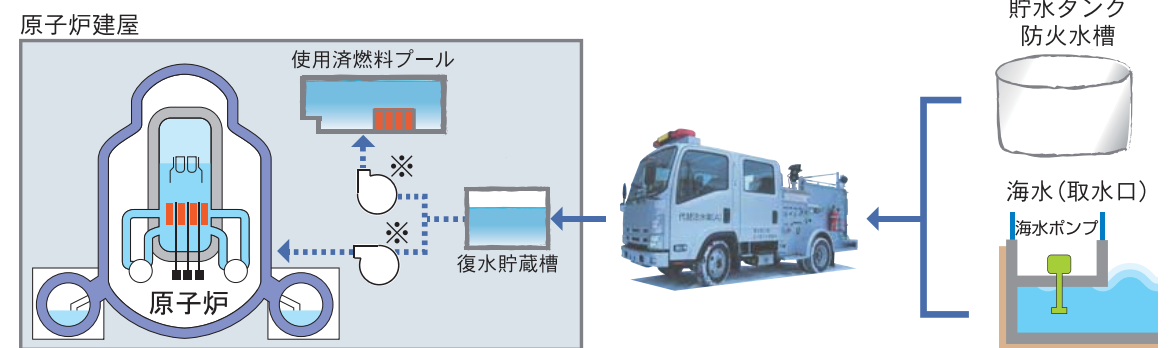


様々な状況を想定した訓練を繰り返し実施

他に担当している安全対策は。

緊急時に、原子炉や使用済燃料プールを冷却するために注水を行う代替注水車等の維持管理・運用を担当しています。より確実に注水できるよう日々訓練を積み重ねています。

代替注水車による原子炉等への注水イメージ - 3号機の例 -



緊急時に、貯水タンクなどから復水貯蔵槽（タンク）へ冷却水を補給するほか、原子炉や使用済燃料プールに注水するためのポンプ（※）が使用できない場合は、直接注水します。

なお現在、高圧代替注水設備の設置や大容量送水ポンプ車の配備など、注水機能の信頼性をさらに高める取り組みも進めています。

チームワークが良さそうですが、そのコツは。

オン・オフ問わず、何事にも一生懸命に取り組み、常にトップを目指すことで一体感のある職場づくりに努めています。

協力企業も含む発電所構内従業員の団結力、モチベーションの向上を目的に開催された駅伝大会などでも優秀な成績を収めています。



《2号機の新規制基準適合性審査が始まりました》

当発電所は、2号機の新規制基準への適合性審査申請について、昨年12月26日に、宮城県ならびに女川町、石巻市へ事前協議の申し入れを行うとともに、翌27日に、原子力規制委員会に申請を行いました。

1月16日には「原子力発電所の新規制基準適合性に係る審査会合」の初会合が開催され、当社から「防潮堤を海拔29mにかさ上げすること」「基準地震動を1000ガルに引き上げたこと」など安全性向上に向けた取り組みについて説明しました。

今後とも、原子力規制委員会による審査へ真摯に対応し、立地自治体のご指導もいただきながら、発電所の安全確保に最善を尽くしてまいります。

《石巻市議会による現地調査が実施されました》

1月23日、石巻市議会 総合防災対策特別委員会による現地調査が行われました。

当日は、当発電所が進めている安全性向上に向けた取り組みの状況や、2号機の新規制基準への適合性審査申請に関する内容をご説明しました。また、海拔29メートルまでかさ上げを行う防潮堤の工事現場などを視察いただきました。



意見交換の際には「実際に防潮堤を見て、安全対策が進んでいることを確認できた」との感想や「見栄えのいい安全対策だけではなく、地域住民の理解を得るため、さらに努力してほしい」などの意見をいただきました。



《宮城県等が主催する原子力防災訓練に参加しました》

1月29日、宮城県等関係自治体主催の平成25年度原子力防災訓練に参加しました。

今回の訓練では、宮城県沖の地震により、当発電所から放射性物質が放出されたとの想定のもと、関係自治体への通報連絡、放射線量を測定するモニタリング要員の派遣訓練などを実施し、関係機関との連携、協働体制の確認を行いました。

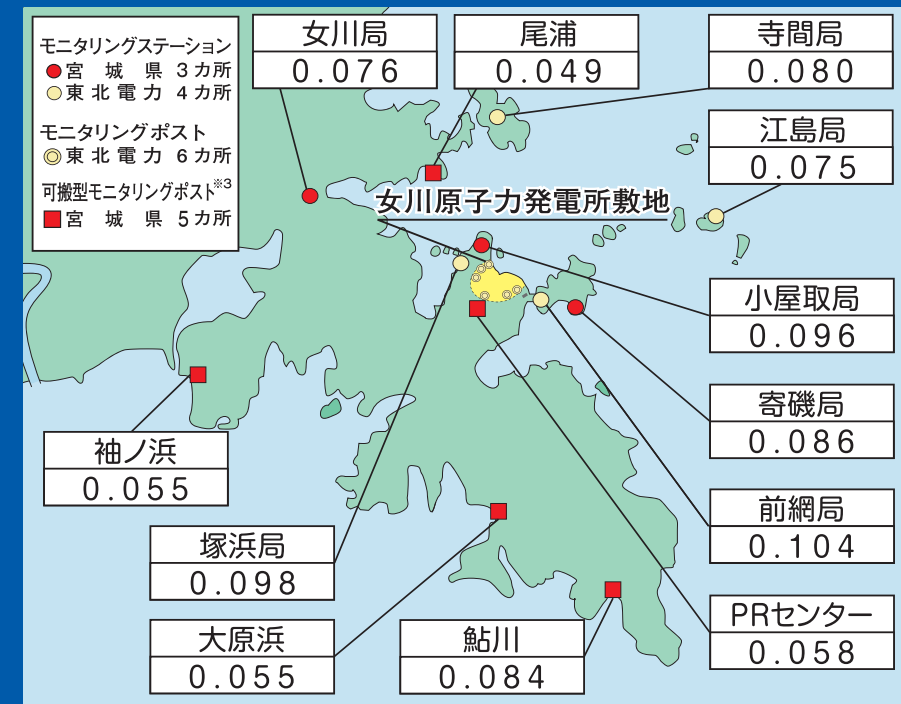


《女川原子力発電所周辺の放射線量は安定しています》

女川原子力発電所周辺の放射線はモニタリングポスト※1やモニタリングステーション※2で測定・監視しており、その測定値は宮城県および当社ホームページで公開しています。

発電所敷地内に設置してあるモニタリングポストの現在の測定値は、最大で0.072マイクロシーベルト/時程度で安定しており、健康に影響を与えるレベルではありません。

モニタリングステーションの測定状況(1/31現在)



単位：マイクロシーベルト/時

- ※1 モニタリングポストは発電所敷地周辺の環境放射線を測定しています。女川原子力発電所の敷地境界には6基のモニタリングポストが設置されており、その最小値と最大値について、東北地方太平洋沖地震の発生日の値、それ以降で最大値が測定された日(平成23年3月13日)の値、至近6カ月の値を掲載しています。
- ※2 モニタリングステーションは環境放射線に加えて気象データを測定しています。
- ※3 宮城県では、震災により測定不能となっているモニタリングステーションの代替として、可搬型モニタリングポストによる測定を行っています。
- ※4 東京電力福島第一原子力発電所からの放射性物質の放出に伴い測定されたもので、測定された時間は約10分間です。

モニタリングポストの最小値と最大値

年	日	最小値	最大値
平成23年	3月11日	0.027	0.064
	3月13日	1.8	21 ^{※4}
平成25年	8月1日	0.048	0.076
	9月1日	0.051	0.078
	10月1日	0.049	0.071
	11月1日	0.049	0.068
平成26年	12月1日	0.049	0.068
	1月1日	0.048	0.082
平成26年	1月31日	0.047	0.072

単位：マイクロシーベルト/時